

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 中国の第1四半期GDPは歴史的な悪化に

2020年4月13日

新型コロナウイルスの感染被害が世界的に広がる中、世界各地でロックダウンが実施され、何とか感染被害を食い止めようという動きが高まっています。ただ、経済的にはかなり深刻な影響が出ることも事実。そうした中、感染の震源地とされる武漢市を中心に早くから封鎖などの対応がとられてきた中国の第1四半期GDPが17日に発表されます。

新型コロナウイルスでの移動・行動の制限に関しては、武漢市において世界で初めての都市封鎖が行われたのが1月23日。その後武漢市のある湖北省を中心に、中国全土で封鎖や市民の外出制限、工場の停止などが行われ、中国経済に大きな影響を与えました。武漢市の都市封鎖が解かれたのが4月8日ですので、GDPの計測期間である3月末まで影響が続いていた形です。

1000万人を超える大都市である武漢市をはじめ中国の多くで生産活動自体が止まっていたため、GDPへの影響はかなり大きなものになると見込まれています。

予想は前年比-6.0%と前回2019年第4四半期の+6.0%から大きく低下する見込みとなっています。前期比では第4四半期の+1.5%から一気に-11.2%まで大きく低下見込み。中国全土にわたっての厳しい行動制限を考えると致し方のないところですが、44年ぶりの通年でマイナス成長の可能性が見える厳しい数字となっています。

同時に発表される3月の中国鉱工業生産、小売売上高にも要注目です。新型コロナウイルスの影響で例年の春節における国内・国外の大移動が激しく制限されるなど、例年とはかなり違う状況が見られたこともあり、2月までの年初来前年比は両数字ともかなり厳しい数字でした（ほとんどの製造業生産などがストップする春節が1月にある年、2月にある年、1月2月にまたがる年があり、ブレが大きくなるため、例年1月と2月は前年比の発表はなく、2月の年初来前年比のみの発表です）。

鉱工業生産の2月の年初来前年比は-13.5%。昨年12月の数字が前年比+6.9%、年初来前年比+5.7%となっていますので、一気に低下です。

小売売上高の2月の年初来前年比はより厳しく-20.5%。昨年12月の数字が前年比+8.0%、年初来前年比+8.0%でした。GDP成長率で6%、個人消費の伸びはそれ以上という状況が続いている国で、個人消費が前年から2割以上も減少という数字に、改めて今回の新型コロナウイルスによる異常事態の深刻さを感じさせる結果となりました。

3月に入って武漢市はともかく、その他の地域での生産や消費が少しずつ戻ってくる中で、今回の数字はある程度の改善が見込まれており、鉱工業生産の予想は前年比-7.0%、1月からの年初来の数字の予想は-8.1%となっています。小売売上高の予想は前年比-10.0%、年初来の予想は-12.3%です。

ともに3月に入っての改善が示されるという見通しに。武漢市の都市封鎖が解除されるなど、4月以降の状況改善はより著しいという期待があるだけに、3月時点での改善がしっかりと見えるようだと、1-3月期のGDPが厳しい数字となっても、市場は悲観するのではなく、今後への期待感を強める可能性も。

中国経済の回復期待が強まると、対中輸出が大きい豪州やNZにとってかなりの好材料に。新型コロナウイルスの感染状況次第ではありますが、欧州・米国などでの感染拡大

ペースの鈍化期待と合わせ、リスク選好からの資源国・新興国通貨に対する買い戻しの流れがもう一段強まる可能性もありそうです。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チエースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。